

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2008-306706

(P2008-306706A)

(43) 公開日 平成20年12月18日 (2008. 12. 18)

(51) Int. Cl.	F I	テーマコード (参考)
H04L 12/56 (2006.01)	H04L 12/56 400Z	5B089
H04M 11/00 (2006.01)	H04L 12/56 A	5K030
G06F 13/00 (2006.01)	H04M 11/00 302	5K201
	G06F 13/00 351Z	

審査請求 未請求 請求項の数 17 O L 外国語出願 (全 54 頁)

(21) 出願番号 特願2008-110373 (P2008-110373)
(22) 出願日 平成20年4月21日 (2008. 4. 21)
(31) 優先権主張番号 07290501.1
(32) 優先日 平成19年4月23日 (2007. 4. 23)
(33) 優先権主張国 欧州特許庁 (EP)

(71) 出願人 503163527
ミツビシ・エレクトリック・インフォメイ
ション・テクノロジー・センター・ヨーロ
ッパ・ビーヴィ
MITSUBISHI ELECTRIC
INFORMATION TECHNO
LOGY CENTRE EUROPE
B. V.
オランダ国、1119 エヌエス・スヒプ
ホール・レーイク、カプロニラーン 46
Capronilaan 46, 111
9 NS Schiphol Rijk,
The Netherlands
(74) 代理人 100110423
弁理士 曾我 道治

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 シグナリングフローの異常を検知する方法及び装置

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 V o I P ネットワークにおいてもシグナリング異常を有効に検知できる新規の技法を導入する。

【解決手段】 通信装置は、ラベル付き学習シグナリングフローを受信し (301)、データベースに供給する。これらのフローは、正常シグナリングフロー又は攻撃を示す種々のシグナリングフローとしてラベル付けされている。次に、データベースに格納されている学習シグナリングフローを使用することにより、プロフィール固有分類モデルを構築する (307)。ここで、プロフィールは、シグナリングフローを特徴付けるモデルであり、シグナリングフローは、パケット、トランザクション、又はダイアログのいずれかに対応する。次に、学習シグナリングフローを分類する (309)。これにより、シグナリングフローは正常シグナリングフロー又は攻撃を示す種々のシグナリングフローのいずれかに分類され、分類は分類モデルに基づく。

【選択図】 図3A



